

新規採用養護教諭研修を実施しました。

令和2年6月5日（金）に、「新規採用養護教諭研修」を実施しました。

中止になった開講式の分も含めてオリエンテーションを行った後、午前中は保健体育課の柘植知則主査による講義・演習「学校安全と危機管理」を実施しました。会場は、新型コロナウイルス感染防止のため、前後左右を空けた指定席にしました。



午後は、東海学園大学の石田妙美准教授に、「救急処置の理論と実際」と題した講義・実習を実施していただきました。救命救急の実習では、大学にある心肺蘇生用の教育人体模型や様々な教具を持参していただきました。タブレ



ットで心肺蘇生の正確さを確認できるなど最新の教材を使った実習で、豊かな学びとなりました。

また、新型コロナウイルス感染症予防対策として、グループの人数を少なくし、間隔を空けるようにしたほか、使い捨ての手袋をはめるなどの工夫をして実施しました。



【受講者の声】

- 救急処置の手順や優先順位など、今までいかに曖昧な知識で対応していたか、気づくことができた。
- 緊急時に動揺しないための知識と技術をしっかり身につけることの重要性を痛感した。



- 養護教諭は最悪の場合を想定しなければいけない、「大丈夫」という判断が一番怖い、ということがよくわかった。
- 「養護教諭だけが知っていても子供の命は守れない」という言葉にはっとした。職員への情報提供がいかに大切かを考える機会をいただいた。

- 傷病者の主訴を傾聴し、正確かつ迅速な処置をすること、少しでも状態を良くして医療機関につなげることの大切さを学んだ。
- 提示された事例をグループで解決する実践を行ったが、実際は1人で判断しなければならない自覚を改めて感じた。
- 自分の心構えの甘さを痛感した。養護教諭としての責任を果たすため、やるべきことに気づくことができた。
- 心肺蘇生やAEDの実践を通じて、先生方に研修する際に押さえるべきポイントがわかった。